Photographic Society of
Zone System

ゾーン・システム研究会会報
発行日：2007.2
発行者：中島秀雄
事務局：畑文夫
編集部：荒井崇

NO.36

CONTENTS

- 2008 年・アンセル・アダムス展に向けて・・・
- 「光で画くこと ― ゾーンシステム研究会写真展に寄せて」
- ゾーンシステム研究会第11回写真展全作品
- 8x10 引き伸ばし光源の作製
- ゾーンシステム研究会定例会日誌
- インフォメーション

2008 年・アンセル・アダムス展に向けて・・・

中島秀雄

ゾーンシステム研究会を立ち上げて今年で 13 年目になる。研究会は、川崎市市民ミュージアムでスタートしたワークショップに参加した受講者、他のワークショップや個人的な興味から入会した人たちによる活動によって、今日まで続けてこられた。研究会はアメリカの写真家アンセル・アダムスの写真理念がベースになっていて、それは、日本でほとんど語られてこなかった大型カメラによるモノクローム写真技法ゾーンシステムであり、プリントに対する捉え方にあるといえる。撮影技法であるゾーンシステムはもちろんのこと、アダムスは暗室ワークを含めた写真制作のプロセス全般に自ら関わり作品を生み出し、プリントそのものを最終目的とし、何よりもプリントを愛し楽しんでいたということが作品からも分かるし、暗室のすばらしさや改良された引き伸ばし機、彼の書いた技術書からも十分知ることが出来る。これらの事がアダムスに惹かれる所以である。一方、情報をすばやく伝えることを使命としたジャーナリズム思考の強い日本の写真界にあって、撮影目的はあくまでも印刷原稿であり、展覧会の作品ですらプリントを楽しむよりそこに映し出された情報に関心が集まり、会期が終われば一部を除いてプリントはどう扱われているのか分からない。アダムスの技法や理念はある意味で対極にあることから、ゾーンシステムの存在は分かっていても深く取り上げるにいたらなかったと思える。しかし、現在はプリントの扱いは少しづつ変ってきている。

研究会は写真家アダムスについての研究もテーマになっていることから、2 年前にカーメルにあるアダムスのかつての仕事場を尋ね、子息のマイケル・アダムスに会い、アダムスの暗室やワークルームを見学すると言う幸運に恵まれた。そのとき、私は近いうちにアンセル・アダムスの展覧会を日本で開催して欲しいとお願いした。結果として私達の熱意がマイケルに伝わり、今日、作品の選定やその他の展示物も含めおおよそ決定されつつある。私は、可能かどうか分からないが、アダムスが使用していたカメラ、レンズ、そして、ネガですら展示してもらえないか現在お願いしているところだ。今度の展覧会は今までの作品展と違ったものにしたいという思いから、奥様のバージニアさんが生前収集していた作品を中心に、ゾーンシステム・キットや屏風、アダムス家の家族愛といったことまで含めアダムスの長年築き上げてきた写真哲学を立体的に展示することになっている。そして、会場の別コーナーに、我々研究会のこれまでの成果である作品を展示することまでプレゼンテーションしている。また、これから進めるゾーンシステム・ワークショプ(注 1)やヨセミテ撮影ツアー(注 2)に参加した人たちによるすばらしい作品がもし展示できるのであれば初めてのことになり、アダムスが推し進めてきた銀塩ファインプリントのすばらしさが日本の人たちに支持され、その結果を提示する展覧会になると思っている。

そこで、今年はアンセル・アダムスの展覧会準備期間にあたることから、特にゾーンシステム研究会の会員にはぜひ頑張ってもらい、すばらしい作品を創っていただきたい。

（注 1）ゾーンシステム・ワークショップ
以下両講座共 4 月スタート
(東京) レンタルラボ　ヒットオン
03-3582-1154
(横浜) ザ・ダークルーム・インターナショナル
045-226-5226

（注 2) ヨセミテ撮影ツアー
6/1-8　JTB 03-3770-0024

「光で画くこと ― ゾーンシステム研究会写真展に寄せて」

　写真の歴史を紐解いていると、
なるほどそうだったのか！といった発見があって面白い。
たとえば 19 世紀中ごろの写真術発明当初、
つまり黎明期の写真家はその多くが画家から転身組だった。
イーゼルならぬ三脚に大きな暗箱を載せて、
ピントグラス上で作画の作業をする彼らにとって、
写真撮影と画業の差は現代の我われが思うほどではなかったようだ。
いずれも「画く」という概念が根底にあったといえよう。

　そして 20 世紀になり小型カメラが普及して、
速写が可能でファインダーを頼りに撮影できるようになり、
写真は作画の時代から対象に向けた眼差しで表現する時代に移っていった。
写真撮影は画き上げるというより、
眼前の事がらを写すという感覚が強くなる。
それはそれで写真表現の幅と奥行きが拡張されて面白くなったのだが、
画くという意欲で取り組む写真の魅力も捨て難い。

　１９３０年代、アンセル・アダムスやエドワード・ウェストンが、
あたかも時代に逆行するかのように大型カメラを使って、
高精彩な写真印画作品を制作したのは、
写真で画くという意識を普遍的な価値として、
写真の歴史に固定する仕事であったように思われる。
たんに写すのではなく画く写真。
それは絵画に追随することではなく、
対象を凝視しリアリティーの核心を衝くという写真のひとつの重要なあり方である。

　中島秀雄氏率いるゾーンシステム研究会が行っている活動は、
こうした写真史の大きな流れを、
まさに正統に継承する大きな意義を含んでいる。
写真の変革期のいま、貴重な仕事である。

平木　収（写真評論家）

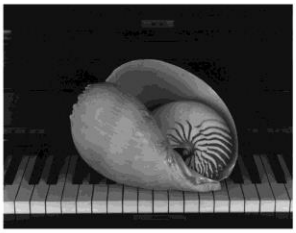
ゾーンシステム研究会第11回写真展［光への探求］全作品

中島　秀雄

海を撮影していた頃、貝をポケットに入れて帰宅したことがある。
貝は、その色や形に引き付けられると同時に、私には、多くの言葉を宿しているように感じる。
時間、空間、記憶、距離、沈黙、響き、静寂、孤独、寡黙、謎・・・・

神奈川県生まれ
東京写真大学(現・東京工芸大学)卒業、
写真家・細江英公氏の助手となる。
細江英公オリジナルプリント展・プリント担当。
1977年、フリー
1986年、米国バーモント州　ゾーンVIワークショップに参加
1995年、ゾーンシステム研究会設立・代表個展、グループ展、
ワークショップ開催
日本写真芸術学会会員
京都造形芸術大学非常勤講師

フロントライト



鍵盤の上の二つの貝

受話器のある収納箱

旅行鞄の寓話

松本ひさ子

すぐに結果が出ないため、ネガ現像があがるまでのドキドキ感、大好きです。

Rock　伊豆、城ヶ崎海岸　3月上旬
River　ヨセミテ公園　5月中旬

Rock

River

荒井　崇

・Cabbages on a board
キャベツは大変魅力的なモチーフで、さまざまな作家が表現しています。
本作品は、板を使ったシンプルな配置で撮影してみました。
・まいめの池
この池は乗鞍高原にある小さな池です。撮影当日、夕方の美しい光線が
白樺を照らしていました。

JPA会員/フォトスカラベ会員/早田会会員

Cabbages on a board

まいめの池

石井　政吉

これまで、さまざまな写真技法、写真家の考え方にふれてきましたが、現在
自分にとって一番美しいと思っているのがゾーンシステムによる銀塩モノクロ
プリントです。
今回、二回目となるアンセル・アダムス撮影ツアーにヨセミテに行き、日本と
は違うダイナミックな風景にすっかり魅せられ思う存分撮影してきました。
・カスケード・クリーク: 静寂の中の激流
・レイディグ・ミドー: 幻想的な湿原

東京写真専門学校　写真学科観光写真専攻卒
現代写真研究所　研究科英ゼミ終了

レイディグ・ミドー

カスケード・クリーク

小野　望

モノクロ写真の白と黒、その中間の微妙なグレーの持つ美しさはモノクロ写真だけの世界であると感じ、その美しさに魅了され大型カメラで日本の素晴らしい自然を記録している。現在、表情豊かな森に魅せられ「森と水」をテーマに森の表情を撮り歩いている。

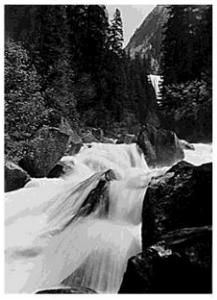
今回の展示は米国のヨセミテ国立公園とユタ州で撮影したものです。

・Vernal Fall　マーセド川上流、ハーフドームの裏側に位置する急流。
・Stone Bridge　マーセド川に架かる古い石造りの橋
・New Place　ユタ州ホワイト　ポケット　白、黄、赤の岩が混在し波状の流れる様なパターンが美しい

・日本写真作家協会会員
・日本写真家連盟会員

New　Place

Stone Bridge



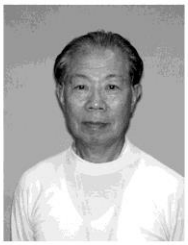
Vernal Fall

越後　久雄

以前から関心があった大判カメラ。
2004年ゾーンシステム研究会に入会。
究極のスローカメラ、大判写真は全てマニュアル。
やればやる程難しく、失敗ばかり。でも、とても面白い。
今年5月ヨセミテツアーに参加し、あこがれのヨセミテを先輩方の御指導のもと、4x5カメラで撮影して参りました。

ファインプリントを目指して目下努力中です。

Waterfall



岡崎　克之

1993年　毎日新聞写真コンテスト　功労賞受賞
1996年　産経新聞シーサイドフォトコンテスト　優秀賞受賞
1998年　浦安市美術展　市長賞受賞
2002年　ゾーンシステム研究会入会

かもめ島

木地

加藤　貞雄

B/Wプリントを学びたくて10月に研究会を初めて見学させていただきました。
まだゾーンシステムを理解しておりませんが、これから皆様に教えていただき、
ファインプリント作りに挑戦したいと思います。

撮影地は時折立ち寄る鬼怒川です。
観光地ではなく、静かで心落ち着く所です。
作品名「静穏」は、静かで穏やかなこと。

静穏１

静穏２

北野　龍一

写真を始めて10年余。写真の世界ではまだまだ半人前。
5月に憧れの地、ヨセミテへ撮影旅行。雄大な風景に圧倒されながら、大自然の片隅でひっそりと生涯を終えて行く大木達の姿に目を奪われてシャッターを切りました。
帰途、立ち寄ったサンフランシスコの海岸では、ヨセミテとは比較にならないような短いサイクルで栄え、見捨てられた桟橋跡に遭遇。
幾つになっても学ぶことは尽きません。

A Carbonized Tree
-Yosemite 2006-

The Abandoned Pier
-San Francisco 2006-

A Decayed Tree
-Yosemite 2006-

小菅　秀一

茨城県取手市在住
今年4月、ゾーンシステム研究会に入会。 5月、ゾーンシステムワークショップにて中島先生のご指導を受け、現在に至る。
撮影は主に「風景」「静物」が対象。
課題は唯一。何を感じ取り、何を表現しているのかが写し出されているプリントを作ること。
・Woods
梅雨の合間、水戸市郊外の森。
前日の雨で、水分をたっぷり吸った草木がいきいきと茂っておりました。
・Leaves
梅雨の曇り日の朝。葉が妖しく生い茂って風で少し揺れていました。下の池の底は古い落葉が沈んでいました。
この被写体は羊歯の一種ですが、植物名は不明です

Woods

Leaves

橘田　功

モノクロ元年と年賀状に記して始めたのが11年前、ゾーンシステム研究会に入会4年に成る、ファインプリントを目指し勉強中。
モノクロームの世界に魅せられ作品は全て黒白、デジタルが謳歌する中、銀塩モノクロームにこだわる。

1939年11月　生
1997年　第71回　国展　初入選（以後連続8回連続入選）
2005年　国画会　準会員
2006年3月　個展 「中欧の街から」橘田功写真展
（コンタックスサロン東京）
社団法人　日本写真協会　会員
日本写真作家協会　会員
東京・小金井市在住

乱流

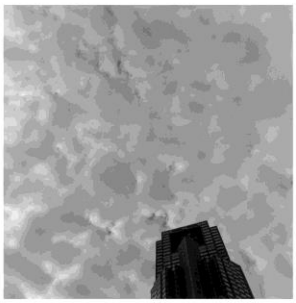
清々

焦樹

鈴木　匡

アメリカインディアンのホピ族の伝説に風で滅んだ文明の話があった。
最近の地球温暖化や北海道で発生した竜巻、ハリケーン「カトリーナ」の報道などを聞くとこの話に不思議な説得力を感じてしまう。
人間は大気なしには生きては行けない。ただ、大気は人間に常にやさしいものではない。時にあららしく容赦なく人間を飲み込む。生命を育む基礎であるが、生命に襲い掛かる破壊神なのだ。人間は日々の生活のなかでその姿を忘れてしまったのではないだろうか。
写真は物事をリアルに再現する。その大気に対して写真機を向けたときそのリアルな大気の姿が現れる。アンセル・アダムスの傑作「ヘルナンデスの月の出」も大気、宇宙、大地といった宇宙感を感じさせる、あのような芸術を見たのは初めてだった。
そして、今ある自分もアダムスのあの作品が出発点であると思う。私も自分なりに、大気、大地、人間を撮り続けようと思う。今を生きる目的として。

Cloud　1



Cloud　2

古谷津純一

大判写真機と過ごす休日は，スローではあるが，なんとも贅沢な時間である．暗室作業も時間を忘れて没頭できる自身の宝物で，現在では趣味の域を越えて“戦いである”とも思っている．

・The 59th Street Bridgeは，もうすぐ開通100周年を迎える古い橋．朝日に輝くManhattan を背景に美しい姿を見せてくれた．
Feelin’ Groovy!

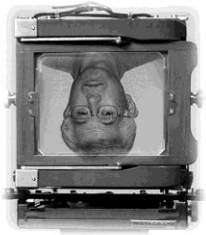
・Quiet Rock は，静かに私に語りかけた．
I am a Rock, I am an island. And a rock feels no pain, and an island never cries.

・Gift は，海岸で波の浸食によって長い間に様々な形に変化した自然の贈り物．
For Emily, whenever I may find her.

Gift

The 59th Street Bridge, NY

Quiet Rock



畑　文夫

″Photograph″を「写真」と意訳したことは日本人にとって現在に至る誤解の始まりだったかもしれない。デジタル技術も応用し、より自在に本来の「光で描く絵」を実践していきたいと考えている。

・Tree and house
カリフォルニア州Pacific Groveにある公園。 朝日を浴びた樹とガラス窓が一瞬輝く。

・Surf
伊豆　城ヶ崎海岸にて。 波の動きをスローシャッターで捉える。

1949年11月生まれ
2003年10月　アンセル・アダムスの助手であったジョン・セクストンのワークショップに参加。 アダムスの孫弟子と言われることを目指す。

Tree and house, Pacific Grove

Surf, Izu

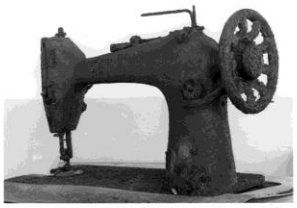
本田勝美

軍艦島、正式名　端島（はしま）は、長崎市沖にある面積約6.3haの小さな人工島である。 19世紀に石炭が発見され、三菱財閥の所有となった。
戦艦「土佐」に似ていることから、軍艦島と呼ばれてきた。良質な強粘炭が取れ、1960年には5,267人が暮らしていた。炭鉱施設の他、生活に必要な施設はほとんどあり、完結した都市機能を有していた。
1960年以降はエネルギー革命により衰退。
1974年1月に閉山し無人島になった。そして、30年が過ぎて、コンクリート建物群の廃墟となっている。

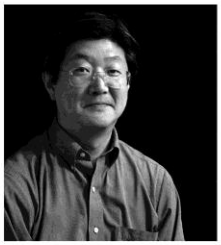
1953年生　京都府在住　写歴約30年
主に風景写真を好む。ここ数年古いものに関心を持ち廃墟等を写している。

島の残照　1

島の残照　2



島の残照　3



浜野次郎

住宅など、建築の写真を撮影する必要にせまられ大判カメラを用いるようになりました。
ゾーンシステム研究会には入会してはや2年、撮影・現像・プリントとどの段階でも気を抜けないモノクロームの世界は奥深く、不注意の塊のような私にはファインプリントへの道は前途遼遠ですが、ゆっくりとじっくりと取り組んでゆきたいと思います。
・Eggplants
底なしの闇のなかでの天体の回転。
・Chimney parts
円筒・楕円・直線の幾何学と不定形な反射面の光の対立。
秋の静物撮影ワークショップで。

Eggplants

Chimney parts

宮岡貞英

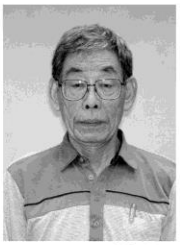
昭和7年東京出身。
昭和26年頃から写真に興味を持ち、平成に入り本格的に活動再開。
デジカメによるカラー写真全盛の時代に逆らい、写真の本筋は銀塩のモノクロであると信じ、モノクロの画面で美しさを感じさせる作品作りを目標に努力中。
紹介写真に写っている愛犬もモノクロです。今回の作品はヨセミテ撮影旅行での公園内建物3点。
1 Ranger's Cottage レインジャー部隊の山小屋
2 Covered Bridge 屋根付の橋
3 Pretty Church 小さな教会

2004年3月 個展 「癒しのたびお遍路さん」
京セラコンタックスサロンにて開催
引き続き高野山「蓮華院」、善通寺市「市民ギヤラリー」にて開催
オンライン コンタックスクラブ 会長
三輪薫 主宰 「わ」の会 会員
同 上 フオトワークショツプ「風」 会員
フォトサークルB&W 会員

Pretty Church

Ranger's Cottage

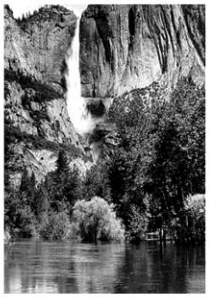
Covered Bridge



圓子靖也

1938年7月生まれ
中学2年頃より六櫻社製「パーレット」※ を手にしてから50有余年。
本年5月、生まれて初めて国外脱出し、行った先が偶々YOSEMITE国立公園10日間の撮影ツアーになったと云う次第。
当然ながらロケハンなどなく、いきなり撮影が最優先と云うこともあって思い通り作画できなく、未熟ではあるが中島先生の指導の下、何とか"ファインプリント"に仕上げたい・・・ という思いが観る人に伝えられれば幸いです。

※ 「パーレット」 ・・・ 大正・昭和2代にわたって人気のあったベスト判(4×6.5cm)カメラ。
六櫻社は現在のコニカミノルタの前身。



Yosemite Falls

O'Shaughnessy Dam, Yosemte

ゾーンシステム研究会第11回写真展スナップ

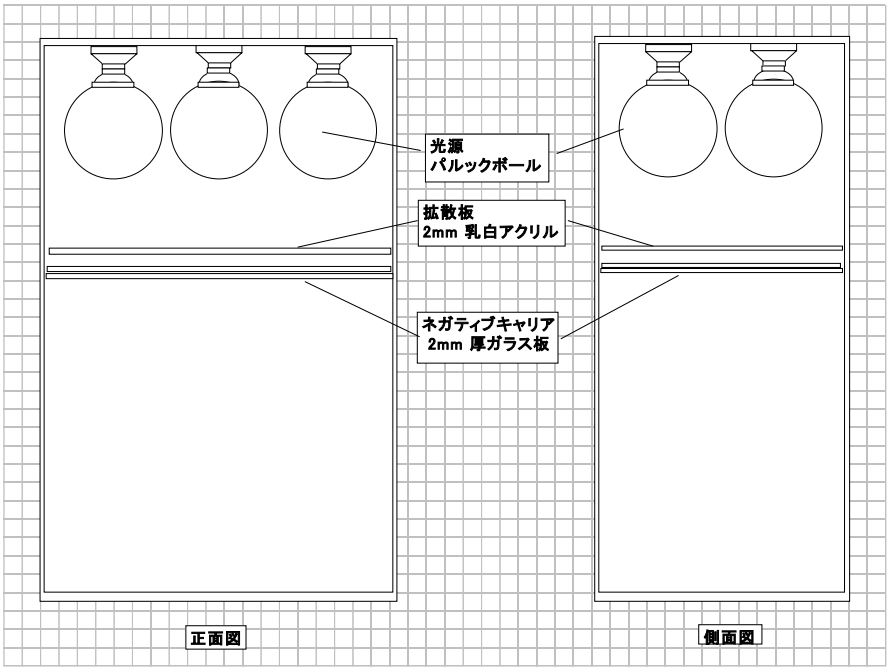
（2006.12.18-27 京セラ・コンタックスサロン）

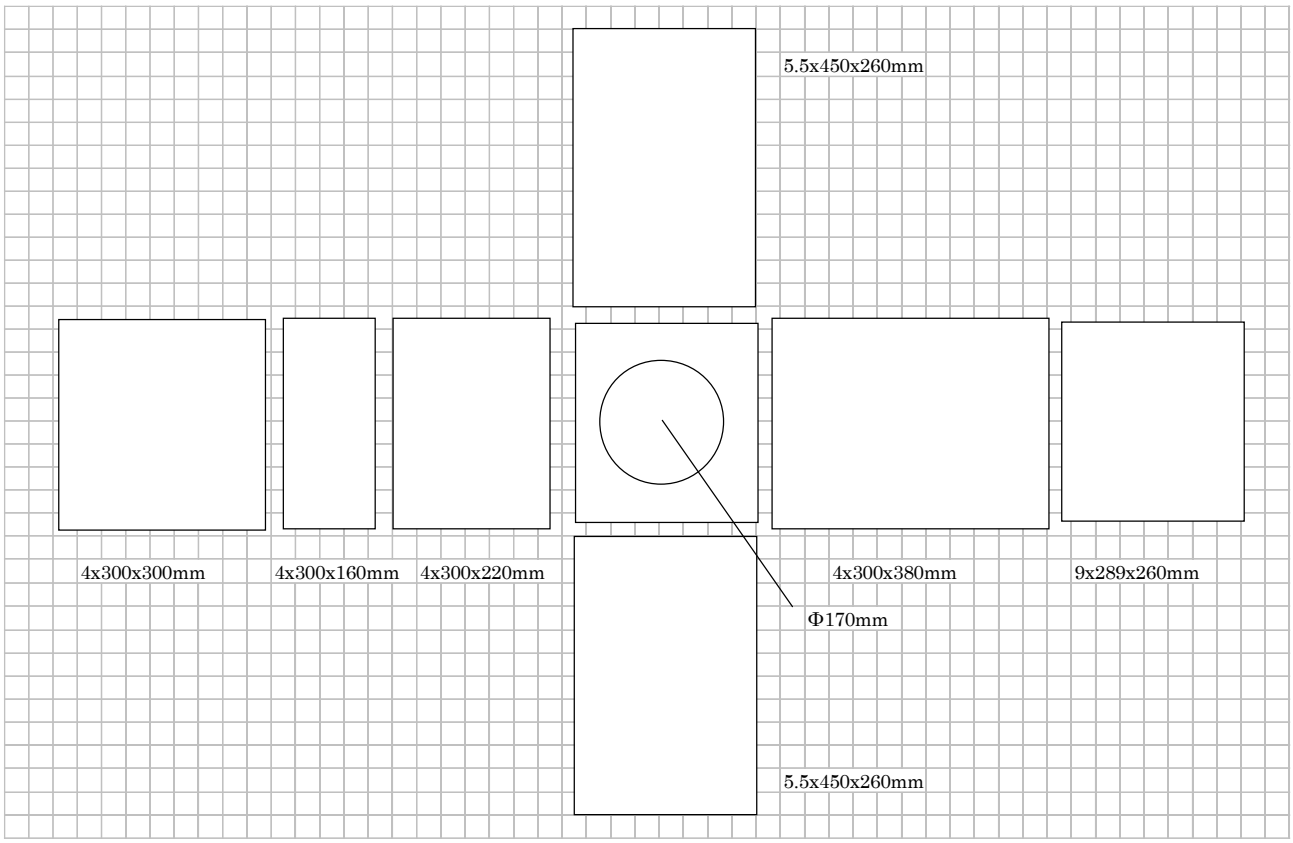
8x10引伸ばし光源の作製

古谷津純一

8x10 をはじめたのは，Edward Weston の密着プリントに魅了されたことが大きな理由としてあげられる．従って，得られたネガティブからのプリントは，密着で楽しもうと考えていたが，近年 8x10 ネガティブからの引き伸ばしプリントを見る機会が重なり，その素晴らしさに動かされていた．是非とも自身の 8x10 ネガティブの引き伸ばしをしたくなったが，市販されている 8x10 引き伸ばし機は非常に高価なため，所有している Beselere 45MXT をベースにして光源部分の自作を検討した．

最大の問題は，光源として何を利用するかで，電球，ハロゲンランプ，蛍光灯，電球型蛍光灯などが候補に上げられた．電球やハロゲンランプでは，発生する熱をいかに逃がすかが問題になり解決に至らなかった．通常の蛍光灯が形状的には最も優れていると思われたが，すべてを瞬時に点灯させるには，それなりの工作技術と費用がかかるため見送った．電球型蛍光灯は，①インバータ回路が内蔵されており，瞬時に点灯することか可能であること，②明るさに対し熱量の少ないこと，③工作が容易であること，④比較的安価に仕上がることなどの条件を満たした．

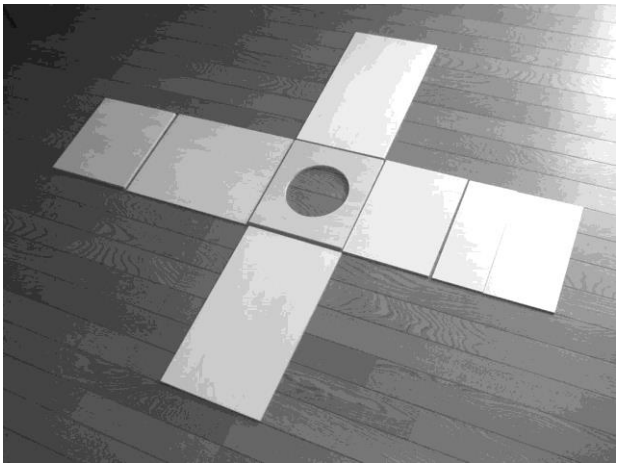




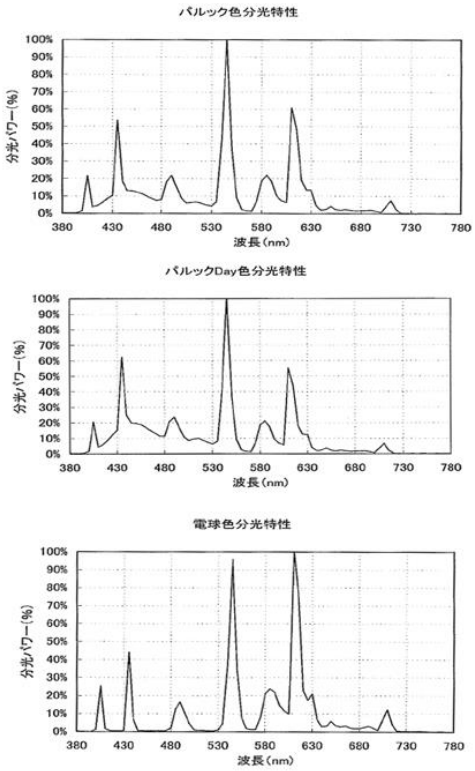
外装は加工の容易さと軽量化を考慮しベニア板を採用した．天板は電球ソケットを取り付けるため 9mm 厚，側板は強度を得るため 5.5mm 厚とし，残りの前側，後側，下部には 4mm 厚とした．下部の板には 170mm 径の穴をあけ，Beseler と連結する．ベニア板カットならびに穴開けは東急ハンズに依頼し，ベニア板の組み立ては，木工ボンドと釘を用いて行った。

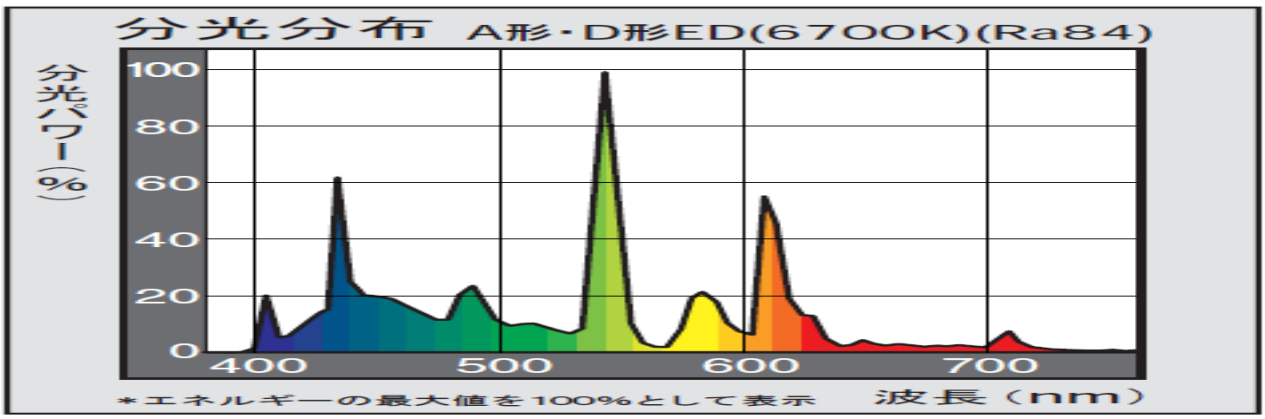
光源にはパナソニック社のパルックボールを採用した．商品説明による本商品の特徴は，

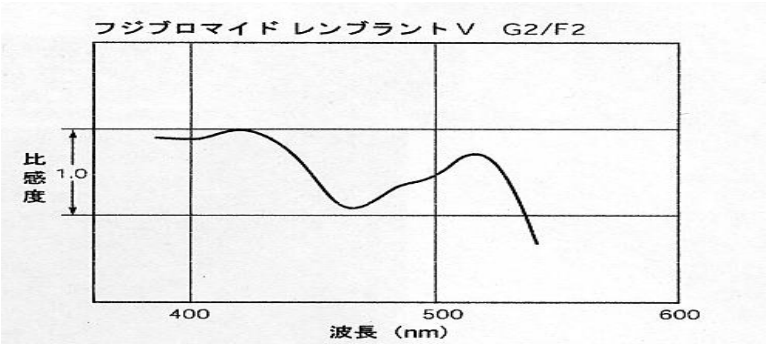
・スパイラル発行管の採用で省エネルギー
・60W 型で 12W の消費電力
・発熱量 1/5
・スイッチ ON ですぐ明るい
・点灯消灯を繰り返す場所にも使用可能
・寿命 3 倍..... とある.

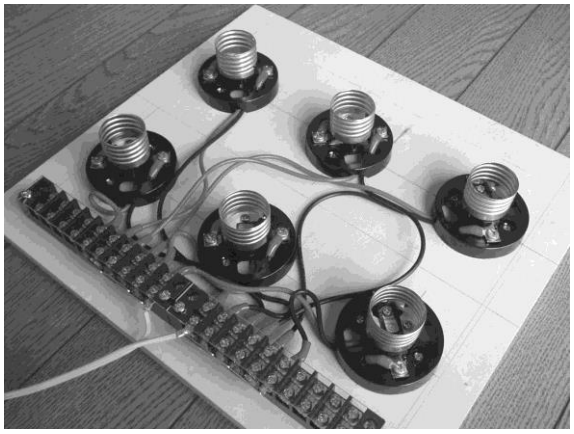


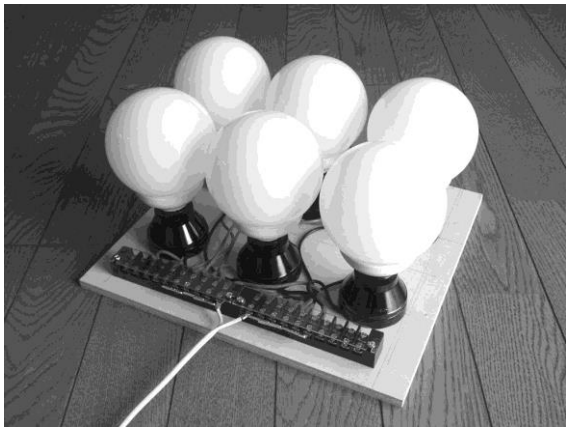
パルックボールは，電球色（2800K），昼白（パルック）色（5000K），昼光（パルック Day）色（6700K）の 3 種類が市販されており，それぞれの分光分布もインターネットで入手することが出来た（左図）．下図はパルックボールスパイラル昼光色の分光分布と富士レンブラント VG2 の感光領域を示す．レンブラント V では，600nm 以上の波長は少なくとも無視できるが，電球型ではこの領域の波長に分光パワーの重点がおかれているために除外した．また，昼白色と昼光色を比較すると，430nm 付近の分光パワーが昼光色の方が僅かではあるが高かったため，これを採用した（右図参照）．この領域はレンブラント V では軟調乳剤域に一致し，重要であると考えたからである．

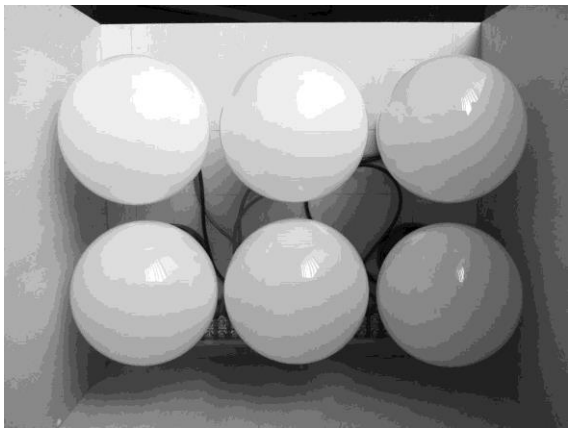






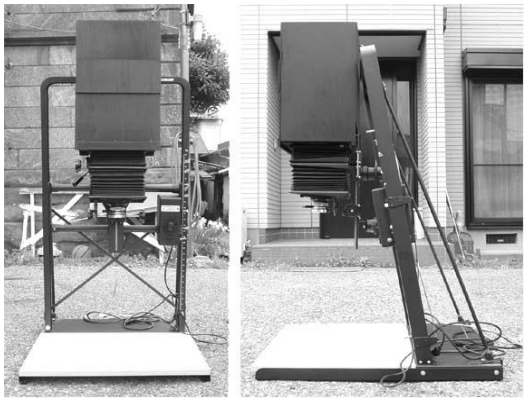


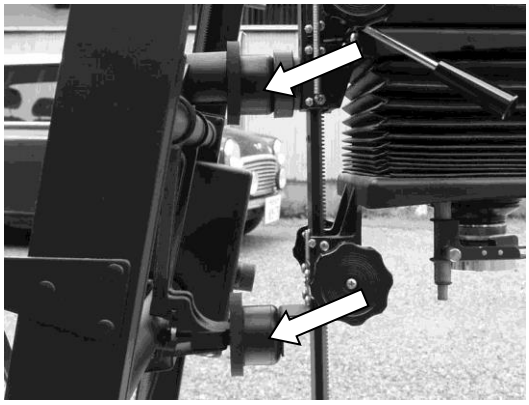




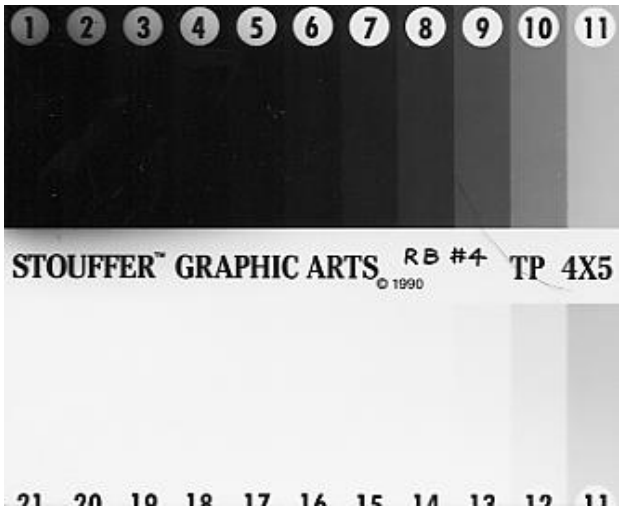
光源は昼光色 60W 相当のパルックボール 6 灯（360W 相当で 72W の消費電力）とし，8x10 ネガティブをカバーできるように電球ソケットを配置した．それぞれのソケットよりターミナルに直列で繋ぎ，ターミナルから電源に繋ぐ．

光源の拡散を目的に光源直下に 2mm 厚の乳白色アクリル板を 2 枚配置し，ネガティブキャリアは 2mm 厚の板ガラス 2 枚のサンドウィッチ方式とした．組み立てが完了したら，暗室内で余分な反射を抑えるため，外装を艶消しの黒色に塗装し，ボルト&ナットを用いて Beseler 45MXT と連結し完成．ところが，ここで問題が生じた．Beseler45 MXT は下図右のように本体アームが斜めに配置されているため，光源ボックス上部が引伸ばし倍率によってはアームと干渉してしまう．ベローズ部分は一体化してシャーシに連結しているため，この部分にスペーサーを加工して，干渉を防ぐことにした．





引伸ばし作業に入る前に，使用する光源が VC ペーパーに対して，特にコントラストコントロールが正常に機能するか否かをチェックする必要がある．STOUFFER 社のタブレットをペーパーに密着し，各コントラストフィルターを挿入してそれぞれプリントして ISO レンジを大まかに調べることにした．使用したタブレットには 21 段階の濃度があり，ステップごとに 0.15（半絞り分）の濃度勾配がある．密着プリントを現像し，乾燥後に maximum black の一段後と maximum white (paper white)の一段手前のステップナンバーを記録し，このステップナンバーに相当する density の差を 100 倍したものが ISO レンジである．例えば 4 号フィルター挿入時の密着プリントが下図の場合，maximum black はステップ#4 であるため，一段後の#5 を記録し，同様に maximum white はステップ#13 であるため，一段手前のステップ#12 を記録する．



記録したそれぞれのステップナンバーに相当する濃度を下表より読み取る．

steps	density
1	0.00
2	0.15
3	0.30
4	0.45
5	0.60
6	0.75
7	0.90
8	1.05
9	1.20
10	1.35
11	1.50
12	1.65
13	1.80
14	1.95
15	2.10
16	2.25
17	2.40
18	2.55
19	2.70
20	2.85
21	3.00

ISO レンジは,

(1.65-0.60) x 100 = 105

で表される. この ISO レンジを使用する VC ペーパーのデータシート（下表）から読み取ると, 3.5 号に相当する.

＜多階調としての特性（フジ VG フィルター N 使用）＞

現像条件：パピトール　希釈倍率　1：1　24℃　90秒　皿現像処理

		フィルターなし	フジ VG フィルター N 号数											
			00	0	1/2	1	1 1/2	2	2 1/2	3	3 1/2	4	4 1/2	5
レンブラントV G2/F2	ISO 感度	P640	P320	P320	P320	P320	P320	P320	P320	P320	P320	P160	P160	P125
	ISO レンジ	R125	R160	R150	R140	R135	R130	R125	R115	R110	R105	R100	R85	R70
階調		2号調	0号調			1号調		2号調		3号調		4号調		5号調

この方法を用いて，他のフィルターを使用した場合のコントラストを求め検証した結果，おおよそコントロール可能であると思われた.

実際に引伸ばしプリントをしてみると，光量むらが目立ったが，光量不足部分を焼きこむことで，なんとか使用することができる．また，パルックボールが3波長蛍光灯のため，分光パワーの問題でレンジマッチングが取り難く，号数変更のたびに露光時間の変更が大掛かりになることが問題点である

今後はLEDを用いた光源を検討中で，現在勉強しながら情報を収集している.

ご指摘やご意見，アイデアなどございましたら，是非ともお知らせ下さいますようお願い申し上げます.

経費

本体	各種シナベニア（カット代含む）		¥1,500
	釘，ボルト，木工ボンドなど		¥1,400
	ラッカースプレー（艶消黒）	2	¥1,400
光源	パルックボールスパイラル（60W相当，P/D色）	6	¥4,740
	電球ソケット	6	¥1,134
	10P ターミナル	2	¥1,160
	コード，スイッチ，他		¥850
その他	ネガティブキャリア用ガラス（2mm厚）	2	¥600
	乳白アクリル（2mm厚）	1	¥1,490
レンズ	Schneider 240mm f5.6		¥15,000
合計			¥29,274

size：300mm(W) x 260mm(D) x 450mm(H)　　wt.：3200g

参考文献：

・ゾーンシステムハンドブック（ 中島秀雄 ）
・The Variable Contrast Printing
（ Steve Anchell ）
・Variable Contrast Printing
（ Alan Ross ）
ほか

ｿﾞｰﾝｼｽﾃﾑ研究会定例会日誌

2006年11月11日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者：中島先生、菅野、小野、古谷津、荒井、松本、石井、岡崎、浜野、加藤（新入会）、越後、橘田、鈴木匡、田中肇、北野、宇野、宮岡、畑

・作品持参者：小野、古谷津、荒井、松本、石井、岡崎、浜野、加藤（新入会）、越後、橘田、鈴木匡、畑

・写真展の準備関連
・写真展会場でレクチャーを行う
　12 月 23 日（祝）15 時～　荒井氏、中島先生
・パーティは未定（会場を確保できるか？）
・来年には京都展も行う予定。（会場を検討中）
・写真展展示作の最終確認

2006年12月9日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者：中島先生、菅野、古谷津、松本、石井、圓子、加藤、越後、橘田、鈴木匡、北野、小菅、畑

・作品持参者：記録無し

・アンセル･アダムス展の計画が進行中：
　２００８年４月から各地を巡回
　２００７年にヨセミテ撮影のワークショップも開催される？
・細江英公展　見学会：
　1 月 7 日（日）13 時 東京都写真美術館
　１階チケット売り場前に集合。
・写真展当番を決定

2007年1月13日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者： 中島先生、菅野、小野、宇野、古谷津、松本、荒井、木下、石井、岡崎、圓子、加藤、橘田、鈴木武志、鈴木匡、北野、小菅、石川、畑、浜野

・作品持参者： 古谷津、松本、石井、岡崎、圓子、加藤、橘田、北野、畑、浜野

・写真展の反省
　＊来場者は約１８００人（会員の出入り含む）
　＊直前のプリント提出で充分な仕上がりにならなかった例がある。次回からは早期の提出をお願いしたい。
　＊全般的に新しいテーマへの取り組み不足が感じられた。
・今年の目標：共通テーマを設定し、これに沿った作品創りを図りたい。
・例会の開催方法の見直し（詳細は別途計画）
　→　毎月の作品提出は、ネガ、ゾーンノート、プリントレシピ、プリントの４点セットを再度徹底したい。
・冬の撮影会　清里フォトミュージアム（ウィン・バロック展）見学とセット？（別途計画）
・今年の写真展（会場：シリウス）向けプレゼンテーション作品募集
・次回総会に８×１０プリントを２点持参
　（未公開作のこと）
・各自写真展出品作の解説と講評。
・当日、写真工業の取材があった。
・中島先生によるゾーンシステムワークショップ（外部主催）有り。
　今年の春から以下 2 箇所で行う。
　(1)ヒットオン
　(2)ダークルーム

Information

【売ります】

・ディアドルフ　4x5 スペシャル

・・・250000 円

購入希望者は編集部（荒井）まで御連絡ください。

【原稿募集】

会員の皆様からの原稿をお待ちしています。

［以下原稿投稿に関するお願い項目です。すみませんがよろしくお願いします。］

１．写真原稿は、紛失事故防止のためできるだけネガやポジは避け、プリントでお願いします。

２．手書き文章はスキャナーでパソコンへ入力できないので、原則として受け付けません。以下いずれかの方法にて投稿願います。

・ワープロやパソコンでプリントアウトしたもの、（スキャナーでパソコンへ入力します。）

・パソコンの電子メール

・ウィンドウズの Word2000-2003

・text ファイル

（ちなみにこの会報は、ウィンドウズの Word2003 で作成しています。）

ただし、どうしても手書き文章しか投稿できない事情がある場合は、事前に御連絡をいただくようお願いします。

３．イラストは手書きでも結構です。スキャナーで取り込みます。

［編集部］　荒井　崇